

やうにさへも思はれます、私は週に三回づつ上野の學校で若い人達にぢかに接してゐますがさうして感じたことは、みんな非常に繊細な音樂的ゲフール（情感）をもつてゐること、藝術的な態度とです、この二つが一番私を喜ばせてくれます、だからベートーヴェンやモーツアルトなどのかかなり困難な曲に對しても、それを理解する力（これが一番大切なのですが）がぐんぐんのびていつてゐます

……私はウイーンにゐた時から偉大な音樂家たちのレーベンを色々な方面から知りたいと思つて、ベートーヴェン、モーツアルト、ブラームス其他多くの樂聖の住んでゐた町や家などを訪ねて歩きましましたが、そこから私の得たものはかれらが専ら音樂藝術にのみ全身を打込んでゐたといふことです、私は自分のこの經驗に加へて、更に樂都ウイーンのもつてゐるウイナー・シユティムング（情緒）を日本の若い人たちに教へたいといふ希望をもつてゐます、これは非常に意義のあることだと私は信じて居ります

——ヂエスタアたつぷりで語る氏の眼光は藝術的情熱に燃えて爛々と輝いてゐた——

〔都新聞〕昭和十二年四月十三日

(十四) アレキサンダー・モギレフスキー Alexander Mogilevsky

在職期間 昭和十二年〜十九年（一九三七〜一九四四）、昭和二十三年

〜二十四年（一九四八〜一九四九）

外国人講師

担当科目 ヴァイオリン、室内楽

#### 履歴（要約）

一八八五年一月二十七日ロシアのオデッサに生まれる。モスクワ音樂院のソコロフスキーフルジマリに学ぶ。  
一九〇〇年一月ペテルブルク音樂院に入学しアウエルに師事。  
一九〇九年同學院を卒業し、弦楽四重奏団を結成。独奏者としても活躍。  
一九一〇年モスクワ・フィルハーモニー協会音樂演劇學校ヴァイオリン科主席教授。

一九一九年モスクワ音樂院教授。

一九二一年同職を辞し、九月に亡命。

一九二三年パリに移り、パリのロシア音樂院で教鞭をとつた。

一九二六年（大正十五年）十一月、来日し東京などで演奏旅行。

一九二七年（昭和二年）三月〜十二月東京高等音樂院（国立音樂大學）講師。

一九三〇年（昭和五年）再来日。以来日本に居住し、演奏活動を行う一方、帝國音樂學校で教鞭をとる。

一九三二年（昭和十二年）東京音樂學校外国人講師。

一九五三年（昭和二十八年）三月七日に東京にて没。わが国のヴァイオリ



アレキサンダー・モギレフスキー（左）

ン教育に携わるとともに、ロシア音楽を紹介した。

(1) 昭和二十四年六月七日付以降の資料が現存せず、退職年月日は不明。以下参照。「發秘一二号 東京音楽學校長 本年四月九日付音庶第一二六号で上申の外國人講師露國人アレキサンダー・モギレフスキーの月手当を増額することは許可する 昭和二十四年六月七日 文部大臣 高瀬莊太郎」(手書き)〔外國人教師關係 自昭和十三年至昭和二十四年〕

〔歸化申請の文書〕

昭和十二年一月十八日

身許調査ノ件

本名ハ歸化ヲ願出タル事二回アリ夫レニ基キ再調シタルモノ

現住所 澁谷區代々木富ヶ谷一五七八

猶太系蘇聯邦人 アレキサンダー・モギレフスキー

一、國籍關係

本名ハ波蘭國境附近ニ演奏旅行ノ際國境ヲ脱出シタリト稱シ居リ全國ニ於テ舊露避難民ノ證明書ノ交付ヲ受ケ其ノ後佛國ニ於テ無國籍旅券ノ交付ヲ受ケタルモノナルモ蘇聯邦國籍ヲ喪失シ居ラズ、但シ在外蘇聯邦大使館、領事館ニ出入シタル形跡ナク從ツテ査証ヲ受ケタル事ナシ

二、引續キ日本ニ住居ヲ有スル期間

本名ハ大正十五年(一九二六年)十一月二十五日佛國ヨリ上海經由本邦ニ渡來長崎上陸東京其他ニ於テ演奏旅行ヲ行ヒタル外、翌昭和二年三月ヨリ東京府下北多摩郡谷保村國立所在東京高等音楽學校ニ講師タリシガ全年十二月末辭職、翌昭和三年(一九二八年)一月二日神戸港出帆東洋各地演奏旅行ニ出發、

昭和五年五月二十五日日本邦ニ再渡來横濱ニ上陸直チニ神戸ニ赴ムキタルモノニシテ引<sup>(1)</sup>キ續キ日本ニ住居有スル期間トシテ認ムヘキハ

(イ) 昭和五年五月二十六日ヨリ全年十月二十四日迄

神戸市山本通三丁目八二、ルーチン方

(ロ) 昭和五年十月二十五日ヨリ全六年五月十七日迄

赤坂區榎坂町五番地

(ハ) 昭和六年五月十八日ヨリ現在迄

澁谷區代々木富ヶ谷町一五七八番地

ニシテ滿五ヶ年以上居住セルモノト認ム

三、獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資産又ハ技能ノ有無

(イ) 資産

計上スヘキモノナシ

(ロ) 技能

本名ハ本國在住當時ヨリ相當有名ナル提琴手ニシテ本邦渡來後モ提琴手トシテ生活シアリテ現在ノ收入狀況左ノ如シ

(A) 東京中央放送局ヲチオ放送料

一回ノ放送料三百五十圓(妻ナデジダノ伴奏料ヲ含ム)ニ

シテ一年ニ約六回放送ニ出演ノ豫定ナリ

年收約二、一〇〇圓

(B) 大阪中央放送局ヲチオ放送料

一回ノ放送料(妻ナデジダノ伴奏料ヲ含ム)三百二十圓ニ

シテ一年ニ約六回乃至十回出演ノ豫定ナリ

年收一、九二〇圓乃至三、二〇〇圓

(C) 提琴個人教授ニ依ル收入

不定ナルモ平均一ケ年一、五〇〇圓ヲ下ラス

(D) 演奏會ニ依ル收入

不定ナルモ平均一ケ年二、〇〇〇圓ヲ下ラス

合計年收 六、五二〇圓乃至七、八〇〇圓

以上ノ外妻ナデジダハ洋琴手ニシテ其ノ個人教授料一ケ年最低五百圓ヲ有スル外本名ハ昭和六年九月以來市立帝國音樂學校ニ提琴講師トシテ勤務一ケ月最低三百五十圓ヲ受ケアリシカ昭和十年四月前記學校内ニ紛擾ヲ生シテ以來休暇ノ形式ニテ勤務セス、本年四月ヨリ出勤ノ豫定ニシテ若シ出勤セバ一ケ年最低三千五百圓ノ年收アル筈ニシテ獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ技能ヲ有スルモノト認メラル

四、職業、素行、現在ノ生活狀態詳細

(イ) 職業

提琴手 (前項参照)

(ロ) 素行

素行普通ニシテ特記スヘキモノナシ

(ハ) 現在ノ生活狀態

收入ハ前項記載ノ如ク一ケ月平均最低五百圓ヲ有シ妻ナデジダトノ間ニ長男ミハイル (昭和五年生) ヲ有シ三人暮ニシテ雇人トシテ日本人祕書一名、下男下女各一名合計三名ヲ使用シ家賃一ケ月五十圓、電話ヲ有シ一ケ月最低四百圓乃至五百圓程度ノ生活ヲ營ミアリ

五、ソヴェト國ニ在住ノ親戚、知人トノ交渉ノ有無

(イ) 父ヤコフ・イサエウイチハ一九一三年、母ソフイヤハ一九一二年オデツサ市ニ於テ死亡

(ロ) 次弟レオニード (二八八六年生) ハソヴェト國オデツサ市ニ於テ樂團指揮者トシテ勤務中ノ由ナル旨歐洲在住當時聞ケルモ本人トノ交渉全クナシ

(ハ) 三弟ダウイド (一八九二年生) ハソヴェト國レーニングラ

ード市ニアリテ音樂學校ノセロ教授タル旨歐洲在住當時聞ケルモ本人トノ交渉全クナシ

(ニ) 姉ツイエリヤハルーチンナル醫師ニ嫁シ目下ソヴェト國

内ニ居住シ居ル筈ナルモ最近消息ヲ全然聞カス

其他ノソヴェト國在住知友ニシテ文通其他ノ交渉ヲ有スルモノ

ナシ

六、本人ト共ニ國籍ヲ取得スル者ノ素行、職業、年齡等其他身分上

ノ參考事項

(イ) 妻ナデージダ・ニコラエウナ・レヒテンベルグスカヤ

一八九八年八月三日生

1、素行 酒ヲ好ミ極度ノヒステリーニシテ持テ餘シ居ル情

況ニアリ

2、職業 洋琴手ニシテ夫アレクサンドルノ伴奏者トシテラ

チオ放送、演奏會等ニ出演スル外洋琴個人教授ヲ行フ

3、其他身分上ノ參考事項

露西亞ノワゴロドスカヤ縣コーリ所在公爵ニコライ・ニコ

ラエウイチ・レヒテンベルグスキイ所領地ニ於テ其ノ二女

トシテ出生家庭ニ於テ中等教育ヲ終了一九一五年ペテルブ

ラエウイチ・レヒテンベルグスキイ所領地ニ於テ其ノ二女

トシテ出生家庭ニ於テ中等教育ヲ終了一九一五年ペテルブ

ラエウイチ・レヒテンベルグスキイ所領地ニ於テ其ノ二女

トシテ出生家庭ニ於テ中等教育ヲ終了一九一五年ペテルブ

ルグ（現在ノレーニングラード）ニ出テ帝室音樂院ニ入學  
洋琴ヲ學ビ在學二年ニシテ終了家庭ニアリシカ一九一七年  
革命勃發ト共ニ國外ニ避難諾威ニ滞在在中一九二〇年ヨリ佛  
國オレンヂ市附近父公爵ノ所領地ニ移リ居住セルカ一九二  
六年現在ノ夫アレクサンドルノ伴奏者トシテ同伴本邦ニ渡  
來東京神戸其他ニ於テ演奏後アレクサンダート共ニ昭和三  
年一月二日神戸出帆東洋各地演奏旅行ニ出テ昭和四年九月  
十八日爪哇滞在中アレクサンドルト結婚、昭和五年五月二  
十六日相伴フテ本邦ニ再渡來爾來同棲今日ニ至ル

父ニコライ・ニコラエウイチ・レヒテンベルグスキイ公爵  
ハ一九二八年佛國ニ於テ病死、母マリヤ・ニコラエウナハ  
目下佛國オレンヂ市ニ居住、姉アレクサンドラ（當四十一  
年）ハバリニ、兄ジュニコフ當三十九年獨逸バリヤニ、弟  
セルゲイ當三十二年ハ獨逸ライプチヒニ、妹マリヤ當二十  
九年ハバリニ現住シ文通アリ

(ロ)二男ミハイル（一九二九年九月二十六日生）

爪哇バンドン市ニ於テ出生目下幼稚園ニ通學中

#### 七、交友關係

樂壇關係者並師弟ノ關係方面ノミニシテ容疑人物ナシ

#### 八、身分上ニ於ケル參考事項

本名ノ本國語ニ依ル正式ノ姓名ノ呼稱ハアレクサンドル・ヤコ  
フレウイチ・モギレフスキイニシテ一八八五年一月二十七日オ  
デッサ市ニ於テ出生、出生地及ロストフニ於テ初等並ニ中等教  
育ヲ家庭教師ニ就キ習得、一九〇〇年一月ペテルブルグ市所在

帝室音樂院ニ入學提琴ヲ專攻一九〇九年五月全學院卒業、一九  
一二年ヨリ在莫斯科ファイルハーモニック協會音樂學校ニ於ケル  
提琴首席教授トナリタルカ一九一四年世界大戰勃發ト共ニ動員  
サレ軍樂隊指揮者トナリ一九一七年革命後ハウクライナ方面ニ  
避難。演奏會、樂團ノ指揮等ニ從事セシカ、一九一八年ヨリ莫  
斯科市立樂團指揮者トナリタルモ、一九一九年財政的理由ヨリ  
全樂團解散サレ、全年ヨリ莫斯科國立音樂大學ニ提琴主任教授  
トナリ勤務中一九二一年全大學辭職、全年九月演奏旅行ノ途次  
波蘭國境ヲ脱出波蘭ニ出テ全國政府ヨリ露國避難トシテノ旅券  
ノ發給ヲ受ケ爾來波蘭ニ一ケ年、獨逸ダンチヒ市ニ五ヶ月、端  
西ストツクホルム市ニ二年滞在演奏會ニ依リ生活、一九二三年  
佛國バリニ赴キバリ露西亞音樂學校ニ教授タル旁ラ演奏會等ニ  
出演中、一九二六年八月比律賓籍（舊露）ストロークノ仲介ニ  
依リ上海經由本邦ニ渡來大正十五年（一九二六年）十一月二十  
五日長崎ニ上陸東京其他ニ於テ演奏會ニ出演スル旁ラ昭和二年  
三月ヨリ東京府北多摩郡谷保村國立所在東京高等音樂院講師ト  
ナリ勤務中全年十二月末全校辭職、昭和三年一月二日神戸出帆  
演奏旅行ニ出テ、大連、天津、北平、哈爾濱、香港、新嘉坡、  
馬來、カルカッタ、ホムベイ、シムラ、サイコン、ラングー  
ン、爪哇等ヲ巡業、昭和五年五月二十五日神戸再渡來上陸、全  
年九月ヨリ帝國音樂學校ニ講師タル旁ラ東京大阪兩放送局及個  
人演奏會ニ出演提琴演奏今日ニ及ヘルモノニシテ帝國音樂學校  
ハ昨年四月校内紛擾ノタメ一時休暇ノ形式ニテ休講中ニシテ本  
年四月ヨリ再出勤ノ豫定ナリ。

尙本名ハ一九〇八年一月九日莫斯科ニ於テエウゲニヤ・ラサリ  
エウナ・タフトナル者ト結婚全人トノ間ニ長男ゲオルギイ（一  
九〇九年一月生）ヲ設ケタルカ全人トハ一九一七年以來別居中  
ノ處昭和四年正式離婚長男ゲオルギイハ前記タフトノ籍ニ入ル  
コトトナリ全年九月十八日現在ノ妻ト結婚セルモノニシテゲ  
オルギイハ目下佛國籍ヲ取得シ母タフトト共ニ佛國パリニ居  
住美術建築ニ従事シ、本名ト共ニ日本國籍ヲ取得スル者ニ非  
ス

〔和文タイプ〕〔外國人教師關係 自昭和十二年至昭和十三年〕

（一）この部分に手書きで「左ノ番ニ居住ス」と加えられている。

### （十五）レオニード・クロイツァー Leonid Kreutzer

在職期間 昭和十三年～二十五年（一九三八～一九五〇）  
外國人講師  
担当科目 ピアノ

#### 履歴（要約）

- 一八八四年三月十一日ロシアのサンクト・ペテルブルクに生まれる。
- 一九〇一年ペテルブルクのセント・ペトリ・ドイツ高等学校を卒業。同年ペテルブルク音楽院入学、ピアノをエシポヴァに、作曲をグラズノフに学び、一九〇五年同校卒業。
- 一九〇六年渡独、欧米ほかでピアノリスト・指揮者として活躍。
- 一九二一年～一九三三年ベルリン高等音楽学校主任教授。シヨパン作品全集を校訂・出版する。
- 一九三一年（昭和六年）初来日。演奏会に加えてわが国では前例のなかった特別講習会を行い、その功績により銀杯を授与される。



レオニード・クロイツァー

- 一九三三年四月、ナチスによって制定された職業官吏制度再建法により公職追放を受けベルリン音楽大学主任教授を辞任。
- 一九三四年（昭和九年）二月末～六月再来日。翌一九三五年にかけてアメリカ演奏旅行。
- 一九三五年（昭和十年）そのまま帰独せず三度目の来日。
- 一九三八年（昭和十三年）三月、東京音楽学校教務嘱託。
- 一九三九年（昭和十四年）東京音楽学校外国人講師となり日本に永住。
- 一九四二年（昭和十七年）ナチスに国籍を剥奪され、無国籍となる。
- 一九四四年（昭和十九年）東京音楽学校を公職追放。演奏活動も停止。
- 一九四五年（昭和二十年）五月十七日より終戦の八月十五日まで軟禁される。
- 一九四六年九月～一九五〇年（昭和二十一年～二十五年）東京音楽学校に復職。
- 一九五三年（昭和二十八年）演奏中になおれ、東京にて没。
- 日本で活躍した門下生にカガノフ（別名シ・コハンスキー）、伊達純、室井摩耶子ら。妻は門下生の一人である織本豊子。

著書